

岡山・兵庫両県知事会議 議事録

日 時 平成25年11月29日(金)
13時30分～14時45分

場 所 岡山全日空ホテル

1 開会

○司会 定刻となりましたので、ただいまから岡山・兵庫両県知事会議を開会いたします。

私は、本日の進行役を務めさせていただきます岡山県総合政策局長の藤井でございます。どうぞよろしく願いいたします。

では、まず初めに、開催県である岡山県の伊原木知事からご挨拶を申し上げます。

2 両県知事挨拶

○伊原木知事 岡山県の伊原木でございます。

井戸知事におかれましては、大変お忙しい中、岡山にお越しいただき、まことにありがとうございます。本日は、大先輩の知事であり、また関西広域連合の連合長としても活躍されている井戸知事と両県知事会議を開催できますことを大変うれしく思っております。

本県と兵庫県とは、池田光政公が播磨姫路藩と備前岡山藩の藩主を務めた歴史的な縁があり、これを契機に両県の住民自治組織が姉妹交流提携を結んでおります。また、県境地域を中心に、買い物や通学、通勤、通院など日常的な交流が盛んであり、赤穂市、上郡町、備前市で東備西播定住自立圏を県境を越えて形成するなど、歴史的、地理的なつながりは大変強いものがございます。

県行政レベルでは、県境を接する両県の3県民局で県際交流事業を実施しておりまして、また神戸淡路鳴門自動車道、瀬戸大橋等の本州四国連絡高速道路の料金につきましては、両県を含む関係府県市で連携して要請活動を行ってきたところでございます。

また、両県共通のすばらしい財産である瀬戸内海に関連いたしましては、今年は瀬戸内海環境保全特別措置法制定40周年に当たり、来年は瀬戸内海国立公園指定80周年を迎えます。井戸知事には、瀬戸内海環境保全知事・市長会議の議長として長年にわたり瀬戸内海の再生にご尽力をいただいております。感謝申し上げます。

このように注目を浴びている瀬戸内海を活用した連携につきましては、両県を含む関係

7県で瀬戸内ブランド推進連合を4月に設立したところでございます。

私といたしましては、産業や観光の振興、広域防災などさまざまな分野で互いにメリットのある関係を保ちながら、地域の課題に応じた両県の連携事業を一層拡充してまいりたいと考えております。本日の会議が両県のきずなを一層深め、相互の発展に向けて実りあるものとなるよう祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

○司会 それでは、続きまして、井戸知事様のほうからご挨拶お願いいたします。

○井戸知事 3年ぶりになってしまいました。岡山県と兵庫県との両県会議でございます。

石井知事と私とで両県会議やろうということで、これまで4回開催させていただきました。終盤になりまして、お互いに日程が合いませんで、今日に至ったわけではありますが、今回このような、伊原木知事が誕生されまして初めての両県知事会議が再開できたということ大変喜んでおります。

あわせて、両県の深いつながりについては伊原木知事がご紹介していただいたとおりますけれども、来年はNHKの大河ドラマが黒田官兵衛、「軍師官兵衛」でございます。黒田家のもともと家業でありました目薬の販売は岡山から始まっておりまして、その目薬の販売で財をなして、そして小寺家の家老職になって、それが黒田官兵衛の活躍につながっていったという由緒もあるわけありますので、大変来年は観光でも協力をさせていただかなくてはならないなという意味で、この機会にご相談をできればと思っております。

もう十年前になりますが、宮本武蔵が大河ドラマに取り上げられましたことがありました。その時は両県で共同観光キャンペーンをやらせていただきまして大変盛り上がりしました。播磨と美作が一体となったような対応をさせていただいたことを覚えております。

おもしろいことに、武蔵の生誕地については、加古川の米田という地区であるとか、あるいはいやいや大原だという生誕地争いがありまして、これも大変盛り上がりしました。別にどちらかでなくてはいけなわけじゃなくて、こういうふうな盛り上がりが出てくるということが非常に重要なんじゃないかと思っています。

黒田官兵衛にも、兵庫県内にありますけれども、生誕地争いがあります。姫路説がもちろん濃厚なんです、兵庫県の西脇の北側に黒田庄、黒田官兵衛の「黒田」に「庄屋」の「庄」の黒田庄っていう地名の町があるんですが、その黒田庄がやはり黒田官兵衛の生まれ地だという説もありまして、これも生誕地争いになればいいと、そうすると盛り上がる

というふうに申しているところでございます。

また、昨日は、本四道路の料金についての要望活動と、それから超党派の議員さん方の瀬戸内海の再生の懇談会に出席してまいりました。本四道路の料金の問題については、なかなか国交省自身かたいんですけれども、あのままではなかなか難しいなというような状況もありますので、基本的に原理原則は主張しながら、適切なところで対応していけないかなと願っております。

瀬戸内海の再生の問題は、瀬戸内海自身が閉鎖性海域でございます。閉鎖性海域で環境を悪化させた海で、今や2カ所、常設水質監視ポイント2カ所だけが環境基準を達成していない、ほかは全部達成しているというような状況が生み出されているような海は世界中でありません。つまり一度汚れた海が発生源対策や総合規制によってよみがえってきたという例は世界中でありません。そういう意味では、我々は環境対策で一つの大きな成果を上げたわけではありますが、瀬戸内海、もともときれいな海、豊かな海、美しい海という3つの、三拍子そろった美人だったんですけれども、今はきれいな海は実現したんですが、豊かな海、漁獲量が減っている、それから美しい海、自然海岸だとか景観が相当やられてしまっているということでありますので、瀬戸内海の再生を総合力を上げてしたいというのが議員連盟をつくっていただいた趣旨でございます。愛媛の塩崎先生が会長をさせていただいてまして、私どもの末松参議院議員が事務局長をやらせていただいておりますが、昨日は漁協の、12漁協連合会の会長さん方もお集まりいただきまして、次なるステップへの勉強会としては大変成功をおさめたのではないかと、水産庁や環境省からもお見えいただいて、国交省も入れていかないといけないのではないかとというような話になった次第でございます。

もう一つ、私の生まれ育ちは姫新線沿線の播磨新宮でありますし、そのような意味では、いつも岡山とは子供のころから行き来があったわけですがけれども、産業的に言いますと、西播磨の木材は津山の市場で出ささせていただいて値づけをしたほうが値段が高くつく、私どもの山崎の市場で材を出して値づけをするとちょっと安いということで、いい材は津山に運ばれているというのがございまして、これをやはり一体的に考えていったらいいんだと、何も県境が木材のためにあるわけじゃないというふうに理解をしたいな、このように思っております。

また、日ごろから西播磨のいろんなイベントに両県一体となって開催をさせていただいておりますことに感謝を申し上げますとともに、これからもどうぞよろしくお願いを申し

上げたいと思っております。

ちょうどそれぞれ関西と中国の境界を接しているのが両県でありますので、関西と中国のいわば連絡役としても、このような両県協議会を開催させていただいて、常に情報を共有していく、課題も共有して対処していく、このことが重要だと思います。そのような意味で、今後とも両県のフランクな関係づくりに努力をさせていただきたいと思っております。

このような機会を伊原木知事の呼びかけで再開できましたことに心から感謝を申し上げまして、冒頭のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

3 意見交換

○司会 ありがとうございます。

それでは、これより意見交換に入らせていただきたいと思います。

本日は、大河ドラマを活用した観光連携など大きく5つの項目を予定いたしております。なお、日程といたしましては、15時ごろまでの予定でお話を進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これ以降の意見交換につきましては、進行も含めて伊原木知事をお願いしたいと思っておりますが、着席のままをお願いいたします。

(1) 2014NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」を活用した観光連携

○伊原木知事 では、よろしくお願いいたします。

最初の項目が、2014年のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」を活用した観光連携でございます。

来年の「軍師官兵衛」、本当におめでとうございます。先ほどお話にありました武蔵もそうなんですけれども、岡山もちょっとかかわっているということで、岡山県のほうでも期待をいたしております。また、姫路城のほうでは大河ドラマ館の建設が着々と進んでいると伺っております。

大河ドラマを機に、この両県への観光客を増やしていきたい、官兵衛ゆかりの地をめぐる、もう一泊してみようかというような広域的な観光周遊ルートの設定ができたりとか、そういう取り組みができればなと思っております。せっかくの機会を十分に活用する工夫について考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○井戸知事 はい、大変ありがたいお申し出を頂戴いたしました。黒田官兵衛を是非大河ドラマに取り入れてほしいというのはNHKにずっと働きかけをしてきてたんです。もう10年越しぐらいになると思います。いつもNHKのその神戸放送局長からは、いや、官兵衛いいんだけど、おもしろいんだけど、「艶」がないですねと言われてたんです。艶がないっていうのは、光姫様一本ですので、全然そのような意味でのロマンスがないと、こう言われまして、ドラマになりにくっていう話があったんです。

しかし、私は、いやいや、そんなのは、宮本武蔵だって、おつうさんは吉川英治の想像の産物ですから、ですからつくればいいんだと。例えば伊丹の有岡城で1年幽閉されてましたけど、そのときにどうして官兵衛が1年耐えられたのか。それはくノ一が常に支援に行ってたからだ、そんなふうにつくればいいんだと、こう言っていたんですが、それが功を奏したかどうかは全然わかりませんが、取り上げてもらうことになりました。

官兵衛は、もちろん岡山も、それから兵庫も、そして大分の中津、そして福岡に関連しますので、これら関連の地域等も含めながら、できれば一体となって官兵衛キャンペーンというふうなことをやるようなことができないかということは今検討をさせてもいただいております。ひめじ官兵衛プロジェクト推進協議会というのを姫路自身はつくっておりますが、もっと全国的な対応が必要なんではないかな、このように考えているわけでございます。

あと具体的には、観光プロモーションなど共同でやらせていただくということもあると思いますし、それからもう一つ、武蔵のときにも活用していただいたのですが、両県で団体バス旅行の助成をして両県コースをつくってというようなことを今回も、今もわずかですが、30台ぐらいですけど、両県をまたがる団体旅行バスの枠を持っているんですけども、これを少し増やしながらか活用して、両県をまたがる団体観光客を誘致するということも検討させていただいたらと考えているものでございます。

そのような意味で積極的に相談をさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○伊原木知事 どうもありがとうございます。大変心強いお言葉をいただきました。

また、井戸知事を初めとした関西広域連合の招致活動で、生涯スポーツの国際大会ワールドマスターズゲームズも平成33年開催決定ということで、本当におめでとうございます。是非兵庫県が盛り上がっている応援というか、是非参考にさせていただいて、岡山県も頑張っていきたいと思っております。

岡山県、おかやまマラソン（仮称）も今計画をされておりまして、平成27年、あと2年後ですけれども、神戸マラソンが大変盛り上がっているということで、いろいろ参考にさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○井戸知事 ワールドマスターズゲームズは、ちょうどオリンピックの後の2021年に開催しますので、私のもくろみでは、海外からは3万人ぐらいは来ていただけるのではないかと。すると、家族を入れると5万人ぐらいになるんじゃないかと思っております、ゲームをするだけではなくて、スポーツツーリズムっていいですか、スポーツでやってきていただいた後、観光地等を回りながらお帰りいただくというのがワールドマスターズゲームズの参加者の通常のスタイルでありますので、是非広域観光に出向いていただくような対応をしていく必要があるのではないかと考えておりますので、その際にもまたよろしくご協力をお願いしたいと思います。

それと、おかやまマラソン（仮称）を開催されるとすれば、大変重要なことは、脱落者をしてできるだけ少なくするという意味で、ホノルルマラソンみたいに無制限というマラソンもあるんですが、我々は9時から4時だから7時間なんですよ。

○伊原木知事 長いですね。

○井戸知事 7時間。7時間はとられたほうがいいと思います。そうしないと、完走率が高くなないと、ピックアップしていかなきゃならないんですよ。これのほうがよっぽど大変なんです。ですから、交通規制の時間を何時間するかっていうことと絡むんですが、最低7時間は完走時間だという設定が必要なんではないかと、このように思います。これはアドバイスをさせていただきたいと思えます。

(2) シカ等の野生動物による農林業被害対策

○伊原木知事 大変貴重なアドバイスありがとうございます。

この観光客が増えるというのは大いに結構なわけでありましてけれども、最近ではシカが増えて困っているということで、次の項目、シカ等の野生動物による農林業被害対策について井戸知事からお願いいたします。

○井戸知事 まだ現実には岡山県さんと一緒にシカ退治はやってないと思うんです。桃太郎の鬼退治にちなんで、共同してシカ退治もやらなきゃいけないんじゃないかと思っておりますが、京都府とは一緒になりまして県境付近でシカ退治やらせていただいているんですが、そういう意味では、現実にはどうするかはともかく、野生のシカの被害は岡山でも

相当になられてるんじゃないかと思しますので、是非そのような意味での対応と一緒にさせていただければと思っています。

本県の場合は、森林動物研究センターというワイルドライフの研究センターをつくっているんです。人と動物との共生を目指した対応なんです、ドイツのいわゆる森林保安官制度を導入したいということがもとになりまして、そのために野生動物の適正管理をする必要がある、その野生動物の適正管理をするためには、習性だとか、それから野生動物自身の生息空間をどのように確保していくか、人との接触をいかに断つかというふうなことをテーマにした研究センターなんですけれども、ここの指導を受けまして、私どもとしては、兵庫県内で大体今13万頭ぐらいシカがいると。これ、もう多過ぎるんですね。毎年3万から3万5,000捕獲しまして、これから5、6年後に7、8万頭ぐらいの水準に持っていきたいというのが今我々が努力をしている基本方針でございます。そのために捕獲の報償費をかなり出したりしておりますが。

課題は、ハンターの養成でございます。猟友会が高齢化しつつありますので、新しいハンターをどういうふうに確保していくかということが非常に重要になります。そうすると、岡山市にありますクレ射撃場は、我々も活用させていただくことが必要にもなりますし、あわせて国体のときは、兵庫国体のときはクレ射撃は岡山市でやらせていただきました。そのような意味で、ハンターの養成などではご協力をいただくことになろうと思っておりますが、あわせてシカの捕獲などにつきましても、先ほども触れましたように、共同で作業を展開をするというようなことも必要になってくるかと思しますので、その点のご協力をお願いしたいと考えているものでございます。

さらに問題になりますのは、ツキノワグマとか、あるいはイノシシ、それからアライグマ、これらもなかなか増えて困っている部分でございます、岡山県さんと一緒に共同で対処しなければいけないのは、きっとシカとツキノワグマではないかなと思います。情報も密にしながら、共同で対応しなくてはならない場合にはよろしくお願ひしたいと思しますので、ご提案させていただきました。

○伊原木知事 はい、ありがとうございます。とにかくこのシカについても、ツキノワグマについても、県境関係なしに行ったり来たりするわけでありまして、兵庫県さんがしっかり対策をとられて、兵庫県居心地悪いから、じゃあ西にということでも困りますし、また今度、岡山のほうがやってみたらまた戻ってというのもよくありませんので、是非この両県でできるだけ観測についても駆除についても共同歩調でやっていくことがいいんじゃない

ないかと、このように思っております。

ハンターの養成についても、岡山県、なかなか同様に困っておりまして、その撃てる場所が岡山県にあるわけですが、そこはそこで騒音の問題で我々も困ってるということなので、うるさいけれども、ハンターが増えると皆さんシカの面でよくなるんですよということをいかに近隣住民の方にご理解いただけるか、そういった工夫も必要なんじゃないかと思っております。

とにかく最近、シカ、クマの被害、大変増えておりまして、是非先進県である兵庫県に教えていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○井戸知事 イノシシなどは神戸市内にも出没するんです。六甲山からおりてくるんですね。子連れのイノシシが私の住んでるところあたりまで出てきたりするんです。問題は、イノシシなどの害は、ドングリがたくさんできるかできないかで差が生じます。ドングリがたくさんできるときはおりてこないんですけど、やっぱり変動があるみたいですね、毎年。それによって出方が違ってくる。

シカは、これはもうやはりボリューム的に許容限度を超えているのではないかということで、もう本当に少なくなった、被害が少なくなったと言われるようなところまでしっかり頑張ろうというのが我々の基本姿勢でございます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

(3) 木質バイオマスの利用促進への取組

○伊原木知事 はい、申し上げます。

シカは、捕まえてはジビエ料理にしたりしてるわけですけども、この森の厄介者ですらそういった活用をしているわけですから、森の財産は当然しっかり利用しなければいけないということで、次の項目、木質バイオマスの利用促進への取組について、井戸知事からお願いいたします。

○井戸知事 これは、まず最近課題になっておりますのがチップ発電なんですね、バイオマス発電。既にご承知いただいていると思いますが、赤穂に日本海水という会社があるんですけども、ここがチップ発電をやろうということで既に動き始めております。そのうちの、市としてチップを間伐材でとるわけでありまして、大体12万トンから13万トンぐらい要るんですが、2万トンぐらいはいろんな廃材みたいなものを活用する。あとの10万トンは、岡山県側から5万トン、兵庫県側から5万トン、間伐材を確保して、チッ

ブ化して、そして燃してチップ発電をやろうというのが計画になっております。

これ、再生可能エネルギーの固定価格買取制度が始まったこともあって、そのような計画が進んでいるわけでございますけれども、我々は積極的に対応したいと考えているんですが、問題は間伐材の供給体制をどうつくり上げていくかということでございます。この点は岡山県さんのほうが既に整備が進んでるんですけれども、林道から作業道を整備して、できれば大型機械を入れて、間伐材をおろしやすくして活用する体系をどうつくっていくか。このために、まず林道から作業道、そして最先端の作業道までどうネットワークをつくるか。我々としては、今5カ年計画を立てまして、作業道整備1,000キロメートル作戦というのを始めているんですが、今ようやく670キロまで整備されまして、あと約300ちょっとを第1段階として整備して、供給体制を整えようとしております。

そのような意味で、岡山県さんにもまさしく木質バイオマスの発電にご協力をいただくこととなりますので、是非よろしくお願いを申し上げたいと考えております。

もう一つ、先ほどもちょっと触れましたように、津山市場に出したほうが値段が高いというふうなことを言いましたが、私ども、宍粟市、西播磨の北側の地域が木材の産地の一つでもありますので、そこに木材流通センターをつくりました。ここの木材流通センターの取扱量、大体12万トンぐらいを予定しているのですが、これに対するいわば原木の供給体制というのも非常に重要でありまして、その原木の供給体制を構築するために低コスト安定供給のための基盤整備を進めているところでございます。低コスト原木供給団地とかいって一くくりの団地に林道、作業道をつけていって、できるだけ所有者が分散していても上物作業は団地化してやっていくという対応をいたしているものでございます。

これらも新しい県産木材の活用のための基盤整備だというふうに理解しているわけでありまして、岡山県さんにもご指導を頂戴しながら推進を図らせていただきたい、そういうふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○伊原木知事 ありがとうございます。先ほど過分のお褒めのお言葉をいただいて恐縮なんですけど、実際には岡山県でもなかなか苦勞いたしております、岡山県、年間、丸太として約35万 m^3 を生産しているわけですが、同時に出てくるほぼ同じぐらいの、30万 m^3 の間伐材がコストの問題から林内に放置されているというのが実情でございます。これを何とか木質チップですとかペレットなどバイオマス資源を有効活用することによって回していきたいと、未利用間伐材を何とか使っていきたいと思っているところでござい

ます。

今、本県の独自財源であるおかやま森づくり県民税を活用して、そういった間伐材をどう利用していくか、おかやまグリーンバイオプロジェクトとして推進をいたしております。その一環として、文科省から資金をいただきまして、真庭市の真庭バイオマス集積基地を舞台にしまして、再生可能エネルギーを使い、また間伐材から新素材のセルロースナノファイバーを製造する技術開発を現在「森と人が共生するSMART工場モデル実証」という名前で取り組んでおります。間伐材を燃やして発電をするのか、もしくは新素材として活用していくのか、せつかくあるこの森林の資源を有効に使っていきたいと思っております。是非協力して頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(4) JR在来線の利便性向上

○伊原木知事 バイオマスのように動いているものもあれば、なかなか進まないものもありまして、次の項目、JR在来線の利便性向上について私から述べさせていただきます。

この両県を結ぶ山陽本線、赤穂線及び井戸知事も使われていた姫新線は、通勤、通学など地域住民の日常生活の足として大変大切な存在でございます。この県境を越える直通列車の増便、乗り継ぎの改善が大変重要なんですけれども、JR西日本さんに毎年要望活動を実施しているわけなんですけれども、なかなかそれが前に進んでいないと。

こういった要望内容の実現のためには、まずやっぱり利用促進が不可欠であろうと。赤穂線においては、兵庫県西播磨県民局さん、本県の備前県民局、沿線4市などで構成するJR赤穂線沿線地域活性化連絡会議を平成16年に設立したと聞いておりますけれども、沿線で開催されるかきまつりイベントなどでいろいろなPR活動を実施されてきたと聞いております。そういった地道な活動を積み上げていって、是非大事な線、山陽本線、赤穂線、姫新線を盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○井戸知事 ちょうど昔から鉄道管理局が岡山と、それこそ神戸で県境で分かれたというふうな歴史があるものですから、JR西日本になっても、岡山支社と神戸支社との間で列車のダイヤ編成などで時々切れているという状況が目立ってたんですが、最近ようやく、赤穂線沿線のそういう協議会の努力もありまして、改善は少しずつしてきているんです。ただ、山陽本線の姫路岡山間でいいますと、直通列車は朝と夕方と夜、朝は始発から9時、夕方は16時から19時、夜は19時以降なんですけど、これは走っているんですけども、昼間がないんですね、9時から16時までがゼロ。ですから、この昼間を走ってもら

うというのが1つ課題です。それからもう一つは、快速を走らせる、岡山姫路間の快速を走らせてほしいというのが山陽本線に関連する2番目の課題です。

赤穂線でいいますと、上下38本動いているんですけども、1時間間隔なんですね、ほぼ。ですから、これを朝夕はせめて30分間隔運行にしてほしい、本数を増やしてというのが赤穂線での課題です。

それから、姫新線が、これ容易じゃないんですけども、少なくとも上月まで新型車両を入れまして、そしてそれに合うように鉄路も改良したんですけども、是非岡山県側でも新型車両の導入と、それからそれを導入するための鉄道基盤の改良を実施していただきますとありがたいなと私は思っております。これはお願いであります。

JRに対しては、乗り継ぎ時間、佐用駅での乗り継ぎ時間が大変不便なんです。現実のダイヤですと、上りで最大84分、下りで最大71分、大体1時間とか2時間待たなくて乗り継ぎダイヤは乗り継ぎとは言えませんから、そのような意味で、この辺の改善を強く申し入れていきたいと、そのように考えております。

それから、もう一つあるんです。ICOCAの機械を改札に導入をする必要があるんですね。というのは、ICOCAの機械が大きな駅に基本的に入ってきてるんですが、これが小さな駅で導入されてないと、精算等が非常に不便なんですね。これから、このICOCAとかPASMOが絶対流行ってくるはずなんです。

○伊原木知事 そうですね。

○井戸知事 東京なんかですと、タクシーとか、それから本屋さんとか、日常の買い物とか、みんなPASMOで済ませてるんですね。だから、現金、小銭を持たないですね。そういう文化がきっと関西にも、ちょっと関西遅れてるんですけども、関西にも入ってくるでしょうから、そのようなときにきちっと対応できるような体制を今から準備しておく必要がある。

ただ、JRに言いますと、乗降客が少ない駅は投資効果が少ないんで、もう少し見合わせてますとおっしゃるんですが、じゃあ地元負担持たばいいのかとか、いろんなやり方もあると思いますので、これは是非普及を図るようにJRとも相談をさせていただいたらなと思っています。

○伊原木知事 そうですね。いや、この問題は、私ちょっとこれまで余頭になかったんですけど、大事な問題ですね。はい、しっかり対応していきたいと思います。そうですね、せっかくICOCAとか言ってるのに、使えなくて行くのをやめようかみたいなこと

になるともったいないですよ。失礼をいたしました。

最後に、その他ということなんですけれども。

○井戸知事 それとね、もう一つ。

○伊原木知事 どうぞ。

○井戸知事 かきまつりイベント、赤穂線で随分やっていたらいいですね。

○伊原木知事 はい。

○井戸知事 相生もそうですし、赤穂もそうですし、日生もそうですし。

○伊原木知事 日生もそうですね。

○井戸知事 これ、沿線地域活性化連絡会議が調整をしながらやっていたらいいので、自主的に頑張っていたらいいのですが、今もそうですけど、1月、2月、3月とか順序立ててやっていくことが非常に意味がありますので、これからは是非そのような形態で続けていただきましたらと思います。

○伊原木知事 何かバッティングしたり、問題が起きてますでしょうか。

○事務局 いえ、リレー的にやっています。今週は赤穂、来週は日生というように。

○伊原木知事 そうですか。じゃあ、それについては今のいいやり方を踏襲するというとで。はい、わかりました。

○井戸知事 それともう一つは、この赤穂、日生、相生のカキは、広島のカキと比べたら絶対品質がいいんですよ。

○伊原木知事 おいしい。知名度がなくて悔しいんですけどね。

○井戸知事 我々のカキはカキフライにしてもしぼまずぶりんぶりんのままなんですよ。ですから、そういう意味で、もっとPRしないといけないんです。

○伊原木知事 そうですね。

○井戸知事 だから、赤穂のカキ、相生のカキ、日生のカキでは産地名がついてるだけですので、統一ブランドをうまくつくれないか、よく両県民局で相談してもらおうといいんですけど。瀬戸内のカキだと広島まで入っちゃうんで、備前・赤穂のカキかな。赤穂浪士のカキでも赤穂のカキになっちゃうし。何かちょっといい名前をつけて統一ブランドできないかなっていうのが一つです。

それからもう一つは、アサリの養殖があるんですよ。カキと同じように、今底質が悪くなっていますので、アサリの種苗をまいてもなかなか育たないっていう状況がありまして、それでカキと同じように、コンテナの中に砂を入れて、それを浮かべてアサリを養殖す

る、こういう手法があるんですが、これをやりますと大変大きなアサリがカキと同じようにとれます。ですから、この方式を是非広めて、普及させて、もっともっとアサリの産地、カキとアサリの産地にできないかなということで、カキはもう定着してますので、今度アサリも進めたいと考えておりますので、またご相談をさせていただいたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○伊原木知事 よろしく申し上げます。カキのPRはしなければならないというふうに思っておりましたので、はい、是非アサリもあわせて。

(5) その他

○伊原木知事 井戸知事から高速道路に関してお話があるというふうに伺っておりますけれども。

○井戸知事 本四のほうです。

○伊原木知事 はい。

○井戸知事 お手元に資料があると思いますが、これ昨日なんですけれども、たまたま日程の都合がついた私と徳島の飯泉知事とで、本来10府県市で行かなきゃいけなかったんですが、とりあえず都合のついた2人だったもんですから、2人の名前で国交省に要望に行ってまいりました。これは、もう2年前の3月に、全国プールに本四を移行させるという基本方向は定まったんですが、本当に最後の最後になっておりまして、料金格差をなくするために、しかも整備のいきさつはともかく、もう25年から30年たってるわけですので、いつまでもいつまでも格差を維持する状況は不自然なんではないかということで、まず第一に、NEXCOと同等に料金プール制の中に本四道路も入れてほしいということを書いてまいりました。

それから最近、NEXCOのほうは今現在、本四道路もそうですが、5割引きになってるんですけども、その基本料金からの割引率を原資がないということで縮減しようという動きがございます。トラックについては、物流との関連、消費税の値上げとの関連もあるんで、何らかの対応はきちっとされるはずですけども、普通の乗用車などについての料金の割引制度がどうなのか。特にここでまた本四道路とNEXCOの路線とで差がつくと、せっかく基本料金は一緒になったのにまた差がついたということになりかねませんので、本四道路の料金割引についてはNEXCO路線と同等の割引率とすることという要請をしてきたものでございます。現時点では、やはりこの原則論に立った主張を国に対して

はしていかななくてはならないのではないかと思います。

ただ、大変抵抗が強い。抵抗が強いというのは、わがままでつくったんじゃないかと、それなのに全国プールに入って我々のお金で料金を下げるのかというような意見があるのと、それだったらもっと新規路線を整備しろという声が非常に強くあるというように聞いております。それに対しましても、もともと本四道路というのを別会社で整備をすること自身がいささかもう課題だった、問題だったはずだし、もうこれだけ、四半世紀もたつてのに格差がそのままでいいのかっていうのはおかしいんじゃないかという話と、新規路線を整備する財源がなくなるじゃないかという話に対しては、いや、我々は本四道路を整備するときに4分の1負担してますので、4分の1、じゃあ新規道路整備したいというなら4分の1ぐらいは負担しろと言ってもらったらいいで、そういう意味からしても、やはり同じ取り扱いをしてもらいたいということを非常に強く現時点では言っているのですが、この2のほうの取り扱いが大変難関になりつつあるという状況でありますので、是非両県会議でも、原則、今の時点では基本料金も割引も格差がないようにしてほしいということを手帳させていただいたらありがたいなと、このように思って提案をさせていただきます。

○伊原木知事 どうもありがとうございました。関係する関係者を代表して行っていただきましてありがとうございました。

初期負担もさることながら、これまでずっと何年にもわたって追加の出資もさせていただいておりまして、随分我々も痛みを分かち合ってきたと私自身は認識をいたしております。

確かにつくるときにどうだったのかという議論があるのもわかるんですけども、つくってしまった以上、それを利用しないというのが一番の無駄だろうというのが私の主張でありまして、是非使える料金にして、しっかり使って、経済活動を活発にして、そこからの税収、国全体の財政を立て直していくというのが一番今置かれた現状からの前向きな解決策だろうと私自身は信じております。是非一緒に訴えかけていきたいと思っております。

○井戸知事 今の伊原木知事のご発言の延長線で発言させていただくとしますと、私は今非常に心配してますのは、消費税が来年4月から3%上がるわけですけども、この消費税の増強に伴って、本当に景気回復の腰折れを起こさないか。今回腰折れを生じさせてしまうと、もう日本経済立ち直るチャンスがなくなるんじゃないかという心配をいたしております。消費税の増強そのものは避けて通れない道でありますだけに、この景気回復の腰折

れを防ぐための手段というのをきっちりとってもらいたいと思っています。

平成9年の橋龍総理のときに3%から5%へ上げたんですが、そのときは国民負担が消費税の2%分で5.1兆円、それから臨時減税をやめたんですね、それでそれが2兆円、それで医療費などの社会保障関係の個人負担を上げたので、これが約2兆円弱、ですから約9兆円の……。

○伊原木知事 そうですね、9兆、9兆と、よく言われましたね。

○井戸知事 ええ、9兆円の負担増になったんです。これが、結果として、実を言うと、財務省はアジアの通貨不安が生じたとか国際要因もあるんだとかと言うんですが、やっぱり効いてることは効いてるはずなんです。二度と同じ愚を繰り返してはいけない。

そういう意味からすると、今回も5.2兆円なんですね、3%。それから、社会保障のいわば介護サービスの自己負担分を上げようとか、あるいは70歳から75歳の老人医療の負担を1割から2割に上げようとかと、こういうのを全部合わせますと大体1.5兆ぐらいになるんですね。ですから、6.5兆ぐらいになるんですね。それに見合うような対応として補正予算など考えられてるんですが、どうも補正予算の中身が景気対策に本当に資するような中身になってるのかどうかということが問われるのではないかと考えておまして、公共事業には1兆円しか回ってないんですね。そういう状況だとすると、本当にあの景気回復、つまり橋龍さんのときの平成9年に景気回復の腰を折ってしまったおかげでデフレが約20年続いたわけですので、また同じ愚を繰り返さないかというのを大変心配してまして、これに対する対応を政府に強く求めたいと私自身思っております。

今日も、午前中、朝、兵庫県選出の議員さん方に来年度の予算要望してきましたが、この話を大変強調させていただいたところです。

○伊原木知事 ありがとうございます。

時間の関係で少し順番を変えさせていただきまして、職員の人事交流について私から申させていただきます。

本県、実は隣県の広島県、香川県、鳥取県とも両県知事会議を行っておりまして、広島県と香川県とは事務職員の人事交流を既に実施しております。また、鳥取県とは来年4月から防災担当職員の人事交流を実施する予定といたしております。

これまでの経験によりますと、この人事交流をすることによって、お互いの職員がこの相手県の事情をよく理解できるようになった、職員間の交流を深めることができた、視野が広がって、戻ってきてからいい仕事ができるようになったなど、いろいろメリットを感

じているところでございます。

それぞれみんなタイトな中で回してるわけなんですけれども、もしよろしければ、兵庫県さんとも職員の人事交流を実施したいと岡山県では考えているわけなんですけれども、ご検討をお願いいたします。

○井戸知事 既に大阪、京都、和歌山と兵庫は人事交流をさせていただいてます。したがって、どのような分野で交流させていただくのがいいのか、具体的に相談をさせていただいた上で適切な対応ができればと願っております。

県民局同士でやってみたらどうでしょう、そういうのもある。

○伊原木知事 それもありですね。いろんな可能性があろうかと思えます。

○井戸知事 そういうのもあるんじゃないかと思うんですよね。かえって現場感覚、両方持つてる人同士が交流するというのも1つあるのかもしれないので、ご相談をさせていただきたいと思えます。

○伊原木知事 はい、よろしく申し上げます。

岡山の方は、大学進学とかで神戸とか関西圏行く人いっぱいいますし、買い物で、旅行で出ることはいっぱいあるんですけれども、何か近畿と中国ということで行政が分かれているせいなのか、こんなに近い割にはちょっと交流が少ないなっていうことも感じておりますので、是非ご相談をさせていただきます。

○井戸知事 そういう意味では、やはりJRを改善してもらわなきゃいけないね。

○伊原木知事 そうですね。おっしゃるとおりです。

残りちょっと時間がありますので、是非井戸知事から兵庫県内の開催行事についてお知らせをいただければと思います。いろいろ播磨国の風土記の事業などお伺いしておりますけれども。

○井戸知事 これは是非、それこそ姫路へおいでくださいという話なんですけれども、今、播磨風土記が編さんされて1,300年ということで記念事業をさせていただいているんです。ウェブサイトにも「播磨国風土記ん(はりまのくにふどっきん)」というウェブサイトを開設させていただきました。伝承のアニメーションだとか、古代の暮らしをわかりやすく紹介する漫画ですとか、あるいはウォークマップなども紹介しております。是非お楽しみください。それから、フォトコンテストも行いますし、播磨町にあります考古博物館で、播磨の風土記の神・人・山・海というふうな形でこの春に特別展を開きました。それから、広域協議会でもいろんなイベントを実施しております。そのような意味

で、是非お訪ねをいただきましたらということでございます。これが1つです。

それから、来年度の秋になりますと、姫路城が今平成の大修理で覆われておりますけども、取り払われていきます。再来年の春には完成をいたしますので、完成になった新しい姫路城をごらんいただくっていうのも大変新鮮なんですけど、今修理中の、天蓋で覆っております、第6階だったと思いますけど、そこまでエレベーターで上れまして、修理中の天守を上から望むことができますので、今のうちしかそのような視点では見れませんので、その「天空の白鷺」を是非ごらんいただきますとありがたいなとご紹介をさせていただきます。

○伊原木知事 はい、ありがとうございます。それは初めて知りました。私ども、1,300年というところと譲れないところもございまして、美作国も、岡山県の北東部ですけれども、国ができてからやはり1,300年ということで、今年ずっと100以上のイベントでお祭りを行っているところでございます。

今評判の「NARUTOーナルトー疾風伝」の絵でくるんだNARUTOーナルトー列車を1年間動かしているわけですが、今年の4月3日に、佐用駅で出発式を行いました。兵庫県佐用町の皆さんには大変お世話になりました。非常に評判がいいものですが、先ほどのJR、いろんな線の盛り上がりということでもありますし、是非兵庫の皆様にも一度体験をしていただきたいと思っております。

また、「バッテリー」で有名なあさのあつこさん、美作市にお住まいの小説家の方ですが、その方がミステリーを書かれて、岡山県内の北のほうを回って犯人捜しをするというイベントをしてるんです。私も行ってみたんですけど、私がこれぐらいおもしろいんだろうなと思っていた倍ぐらいおもしろかったものですから。来られてる方が、「いやあ、こんなにおもしろいと思わなかった。」と言われた。そもそも行くところもおもしろいですし、謎の難しさがちょうどいいというか、簡単過ぎない、でも何かもう一歩でたどり着けるような気がするということですので、これを岡山県民で独占してるのは申しわけないなという思いがしておりますので、是非兵庫の方にお越しいただければと思います。

○井戸知事 いつからいつまで。

○伊原木知事 はい。もう始まっておりまして、まだまだ十分時間が。一日割いていただければ、くるっと回って非常におもしろい場所に行けることになりますので、お近くでするので、是非よろしく願いいたします。

○井戸知事 岡山の人には、姫路だとか播磨に来てもらって、播磨の人が訪ねるようにしたらいいですね。

○伊原木知事 お城も、白鷺城、我々鳥城、ご案内のとおり池田家が整備した、もうほとんどペアというか、セットですから、是非お互い行き来するというのはすばらしいことだなと思っています。どうもありがとうございます。

では、とりあえずこれで、ちょうど時間で。

○司会 どうもありがとうございました。

それでは、先ほどまで意見交換をしていただきました内容を事務局でまとめたものを作成しておりますので、両知事ご確認いただけますでしょうか。

○伊原木知事 この案でよろしいでしょうか、確認をいただければと思います。

○井戸知事 私は結構ですけど。

○伊原木知事 はい、わかりました。ありがとうございました。

では、用意ができ次第、報道関係の皆様にも配付をさせていただきたいと思います。

以上をもちまして岡山・兵庫両県知事会議を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

4 記者会見

○司会 まことにありがとうございました。

それでは、引き続きまして記者会見を行わせていただきたいと思います。質問をされる方は、恐縮ですが、社名とお名前をお願いいたします。

どなたからでも結構です、挙手で。

はい、どうぞ。

○朝日新聞社 朝日新聞の吉村と申しますが、両県の知事さんにお伺いしたいんですけども、NHKドラマの黒田官兵衛について、観光連携で確認されたと思うんですが、ゆかりの観光地が盛り上がるかどうか、多くの観光客が来るかっていうのは、ドラマのできぐあい、視聴率にもかかわってくると思うんですが、たしか井戸知事、「平清盛」のときに映像についてNHKに苦言を呈していらっしゃったことがあると思うんですけども、今回のこの黒田官兵衛のドラマについて、どんなドラマを期待したいのか、あるいは注文があれば教えていただけますでしょうか。

○井戸知事 余りコメントをするなどと言われてはいるんですけども。

大変期待してるんです、黒田官兵衛に。平清盛も、神戸の清盛に関連する、例えば兵庫大仏ですとか、こういう関連する名勝を訪ねた方は30倍になったんです、前年対比で。したがって、大河ドラマが放映されると大勢のお客さんが関心を持ってお訪ねいただくということはもう間違いない事実だと思っております。

それに、今ご指摘いただいたように、ドラマが盛り上がるような構成だとすれば、よりゆかりの地を訪ねようということにつながってまいりますので、ドラマが全国から盛り上がるように、私自身も大変期待をいたしております。そのことが、また両県のゆかりの地を訪ねていただく観光客の増加につながってくれればと願っております。

○伊原木知事 私のほうから。ちなみに私、「平清盛」に対しては大変いい印象を持っております、10月28日、去年ですけれども、日曜日、後白河法皇が非常に怒ってる場面ではありましたが、8時に私の当選のテロップが流れましたので、大変すばらしい思い出とともに残っております。

濟いませぬ。黒田官兵衛ですけれども、中国の諸葛孔明、日本の黒田官兵衛と、もう軍師として誉れの高い人ですから、ネタは本当にいっぱいあるはずなんですよ。先ほど井戸知事おっしゃられたように、確かに余りいろんな女性とつき合ったっていうのは、私も黒田官兵衛の本何冊か読んだことありますけれども、余り聞いたことがない。そこを新たな歴史をつくっていくのかどうかはお任せをするといたしまして、是非黒田官兵衛の魅力が存分に出てくるようなドラマにしていきたい。

それから、私個人とすれば、できるだけ岡山に随分ご縁があるわけですから、何週間も岡山にいていただけるような展開になればうれしいなと思っております。

○司会 それでは、次の方いらっしゃいますでしょうか。どなたでも結構でございますが。

はい、どうぞ。

○西日本放送株式会社 西日本放送の山本と申します。よろしく申し上げます。

井戸知事からご提案のあった2番目の野生動物による農林業被害対策についてです。このたび両県知事で協力について合意ということなんですが、今後どのような協力関係、もしくは事業が進められるかという期待をそれぞれお伺いできればと思います。

○井戸知事 私のほうとすれば、既に森林動物研究センターでかなりの研究蓄積ありますので、具体の岡山県さんが困られてるような点があると思いますので、是非研究センターを活用していただければというのがまず第1です。

それからもう一つは、例えば生存頭数、生育頭数を調査をするといいますが、調査の仕方によって随分数のカウントの仕方が違うんですね。これらは関西広域連合でも統一しようかという議論を始めてるんですが、これは岡山県さんでも同じような調査方法をしていただきますと、絶対量の比較ができる、対策の基盤ができるということにもつながりますので、これらについても、できれば統一していただけるような方法等がないかなど、これが2番目です。

3番目は、具体的に一緒に作業をする、捕獲作業をするというようなことが、まず必要性があるかどうかがありますが、もし必要ならば一緒に捕獲作業をさせていただいて、兵庫県側から岡山に追い込む、岡山から兵庫県側に追い込む、両方ともとりっばぐれるというふうなことがないような対応ができればなと考えております。

岡山県さんのほうがジビエ料理なんかの活用も随分進められておりますので、我々のほうも、佐用のシカ肉を活用したホルモン焼きうどんなどもあるんですけども、ジビエとまでなかなかいってませんので、西播磨でもそのジビエになるようなルートをきちっとくっていき、このようなきに参考には是非させていただければな、こんなふうに使っているところがございます。

○伊原木知事 岡山県ですけれども、シカ対策については兵庫県さんのほうが進んでいるなというのが私自身の個人的な実感でございます。これまでも、例えばシカでありましたら、シカの個体数管理について、兵庫県さんの事例を参考に、狩猟期間を延長したりですとか、1日の捕獲頭数の制限を撤廃するなど、随分参考にさせていただいております。

あと、例えばシカを捕まえましたということで補助金を出す場合が多くあるわけですが、その証拠が必要だと。これまで美作市では尻尾と写真で確認をしてきましたと。それはそれで悪くないんですけども、兵庫県さんでは、歯を使っていたんだそうだと。どこを使ってもいいんですけども、歯を使ったほうが保管をするときに悪臭が出づらくていいんだというお話を伺って、それを参考にさせていただくようにしたり。やはり同じ問題に対する対応策でも、それぞれ違うやり方をしている。お互いどういうやり方をしているのか教えてもらって、その理由をわかることで、実はあちらのやり方のほうがよかったというケースもありますし、この頭数を計測をするに関しては、明らかに兵庫県さんのほうがしっかりした調査をされていますので、我々も、これは予算のこともあるんですけども、是非できるだけ兵庫県さんの取組に歩調を合わせていきたいと思っております。

○井戸知事 確認の方法は本当に違ってまして、関西の各県でもやり方が違うんですよ。したがって、この間も関西広域連合で来年度事業で確認方法は統一したいねっという話をしたんです。ただ、メリット、デメリットそれぞれありまして、そのそれぞれに猟友会の皆さんが習慣として取り扱ってこられたということもあるんで、本当にうまく統一できるかどうかわかりませんが、そういう方向で一度きちっと検討してみようということにさせていただいてる課題でございます。

○司会 はい、そのほかに。

どうぞ。

○山陽新聞社 山陽新聞の玉川と申します。お世話になります。

まず1点目が、本四高速の料金のことなんですけども、昨日兵庫県と徳島県が国に対して要望されたということで、岡山県もたしか先月でしたか、香川県と同様の要望をされるかと思うんですが、これ、今回の両県、歩調を合わせて、今後両県としてやはり要望をされていくのかということと、あと職員交流は検討をこれから始めるということなんですけども、早ければもう来年4月から、来年度からということをお考えでしょうか。

○伊原木知事 まず最初の質問ですけれども、今回の井戸知事、飯泉知事の要望と同じものについて、少なくともここに書いてある表現については同じものを香川県と要望をいたしております。私どものお願いしている内容と同じでございます。歩調をそろえております。

2つ目の職員の相互交流につきましては、これからどういう部署がいいのかなということとを話し合うわけですので、ちょっと今から来年度っていうのは……。

○井戸知事 いやいや、まとまれば来年度からだってやれないわけじゃありませんから。

○伊原木知事 そうですか。さすが、ありがとうございます。

○井戸知事 早急に相談をさせていただくことだと思います。

○伊原木知事 私ちょっと役所っていうのを見くびってございまして、役所はすごくゆっくりだから、そんな民間企業みたいなスピードでできるかなと思ってたんですけれども、可能性が十分出てきたということで、大変頼もしく思っております。

○司会 はい。それでは、あともうお一人、いらっしゃれば。よろしいでしょうか。

はい。なければ、おおむね予定の時間となりましたので、これで記者会見も終わらせていただきます。本日は皆様まことにありがとうございました。